

冒険キャンプに参加した大学男子アルティメット部員のチーム効力感に関する研究

梶村 優輝 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード：冒険キャンプ，チーム効力感，大学生

1. 緒言

チームスポーツのパフォーマンスにおいては、自信が必要である。その概念としてチーム効力感がある。新田は(2004)は、チーム効力感を「ある結果を生み出すために必要な行動を、自分たちの集団はうまく行うことができる」という信念であると述べている。さらに、集団効力感とはチームの形成やパフォーマンス向上にとって重要であることが指摘されている。また、多くの研究から冒険体験が自己効力感の向上に有効であることが報告されており、筆者は、野外教育の一環として、冒険キャンプがチーム効力感の向上に役立つのではないかと考える。

そこで、本研究では、冒険キャンプに参加した大学男子アルティメット部員チーム効力感に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

[対象者]

実験群：2013年5月31日～6月2日にB大学艇庫や比良山系で行われた、縦走登山やビバークを取り入れた冒険キャンプに参加したB大学男子アルティメット部員1～4回生の計24名を対象とした。

比較群：O大学男子アルティメット部員1～4回生の計31名に調査を行った。

[調査方法]

チーム効力感の測定には、新田(2004)や河津ら(2012)の作成したチーム効力感尺度を用いて、筆者が独自に4因子(勝つ気持ち、コミュニケーション、努力、効力感)16項目のチーム効力感尺度を作成した。調査は事前、事後、2週間後、2か月後の大会直前の4回実施した。

また、他大学との比較するため4回目の調査時に、競技力が優れているO大学のアルティメット部員にも同様の調査を行った。

3. 結果と考察

1) チーム効力感得点の変化

冒険キャンプに参加したB大学男子アルティメット部員のチーム効力感得点の変化を明らかにするために、時期を要因とした分散分析を行った結果、有意差がみられた($f(3, 69)=15.26, p<.001$)。また多重比較を行った結果、事前と比べ、事後、2週間後、2か月後に有意に向上した(図1)。

その要因として記述回答から考察した結果、キャンプを通して計画性や課外を乗り越えようとする努力、チームの為に行動したことが考えられ、その効果を練習に活かしたことで2か月後まで維持されたと考えられる。

2) チーム効力感因子別得点の変化

チーム効力感には、「勝つ気持ち」「コミュニケーション」「努力」「効力感」因子が含まれており、それぞれに時期を要因とした分散分析を行った。

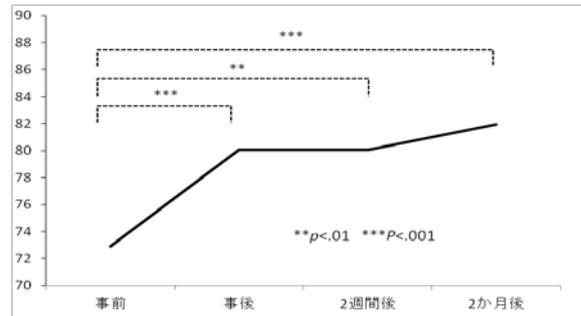
①「勝つ気持ち」得点の分散分析の結果は、有意であった($f(3, 69)=8.54, p<.001$)。多重比較を

行った結果、事前と比べ2週間後、2か月後に有意な向上がみられた。

②「コミュニケーション」得点の分散分析の結果は、有意であった($f(3, 69)=9.95, p<.001$)。多重比較を行った結果、事前と比べ事後、2週間後、2か月後に有意な向上がみられた。

③「努力」得点においては、どの期間にも有意な向上は見られなかった。

④「効力感」の分散分析の結果は、有意であった($f(3, 69)=14.73, p<.001$)。多重比較を行った結果、事前と比べ事後、2週間後、2か月後に有意な向上がみられた。



3) 競技力の高いチーム(O大学)との比較

t検定を行った結果は有意であった($t(53)=2.45, p<.05$)。アルティメット部員のチーム効力感得点の平均はB大学に比べてO大学のほうが有意に高いことが明らかになった。

その要因としてO大学は過去の大会で優勝するなど実績があり、技術的にも優れているため、それらの経験が自信に繋がりこのような結果になったのではないかと考えられる。

また、B大学とO大学のチーム効力感の因子別の比較では、「勝つ気持ち」得点、「コミュニケーション」得点、「努力」得点、「効力感」得点において、B大学よりもO大学が有意に高い得点がみられた。「効力感」得点においては、B大学よりもO大学が有意に高い傾向がみられた。

4. まとめ

今回の冒険キャンプでB大学男子アルティメット部員のチーム効力感が向上し2か月後まで維持された。さらに因子別では「努力」得点以外の得点が向上し2か月後まで維持された。

チームスポーツにおける冒険キャンプ体験は、個人の成長やチームの人間関係の構築に効果的であり、チーム作りの一環として取り入れることの意義が確認された。

引用文献

- 河津慶太・杉山佳生・中須賀巧(2010)：スポーツチームにおける集団効力感とチームパフォーマンスの関係の種目間検討。スポーツ心理学研究 39(2)：pp. 153-167.
- 新田真之(2004)：野外研修プログラムがチーム効力感に及ぼす影響。筑波大学大学院修士論文。